

(1)事業の概要等

事業番号	B1601-2
実施計画事業	
実施計画事業以外の事業	○

令和4年度 事務事業評価シート

事業の概要	事務事業名	病児保育事業					担当部			こども未来部		
	事業期間	平成27年度	～	令和6年度以降		担当課			幼児教育・保育課			
	小牧市まちづくり推進計画(R1年～R4年)	分野別計画編	基本 施策	16	展開 方向	1	担当係			幼児教育・保育係		
	予算区分	一般会計	款	3	項	3	目	3	大	5	中	1
	根拠法令・個別計画	小牧市病児保育事業実施要綱 子ども・子育て支援交付金交付要綱(国の要綱)					事業種別			一般事業		
	目的・成果 (何のために、どのような成果を期待するか)	児童が病気の回復期に至らない場合であり、かつ、当面症状の急変が認められない場合において、一時的にその児童を預かる病児保育事業を実施することにより、安心して子育てができる環境を整備し、もって児童の福祉の向上を図ることを目的とする。										
	対象 (何・誰を対象に)	病児保育事業を実施する保育施設(医療機関)										
	内容・手段 (目的達成のためにどのような事業を実施したか)	<p>●令和3年度の実施内容 市内2つの診療所に併設された施設において、病氣中、または病氣の回復期にある児童の保育を実施した。 委託料は国の要綱に基づき、延べ人数に応じた額となるもの。1施設当たり、基本分と年間の延べ利用人数に応じた加算分を合計した金額となる。加算分については、50人から200人までは50人単位で金額設定され、200人以降は100人単位での設定がされている。 ※R2年度については、国の通知により新型コロナウイルス感染症の影響を鑑み、市町村において、利用ニーズや提供体制等を勘案して、想定する各月の延べ児童数をもって、利用児童数とみなすこととして差し支えない(前年同月の利用児童数を上限)とされたことから、令和元年度と同額となったもの。</p> <p>利用人数:524人</p> <p>●直接経費(令和3年度) 病児保育委託料 20,582千円 (委託料の積算方法) ①基本分:7,041千円×2施設 ②加算分:5,000千円(400人以上500人未満)+1,500千円(100人以上150人未満)</p> <p>●直接経費(令和4年度) 病児保育委託料 22,082千円</p>										
受益者負担	有	小牧市使用料及び手数料条例 1人 1,900円/日										

(2)事業費

事業費	項目	単位等	H30	R1	R2	R3	R4		
			直接経費	決算額	財源	一般財源	千円	4,834	6,478
			国・県支出金	千円	9,372	13,019	11,705	13,477	
			その他	千円	1,395	1,471	334	996	
			計(A)	千円	15,601	20,968	20,968	20,582	
			対前年比	%	-	34	0	△1	
			予算額	千円	15,601	20,968	21,219	21,219	22,082
	人件費		正規職員	人	0.10	0.10	0.10	0.10	
			正規職員(平均賃金)	千円	749	749	749	749	
			その他職員	人					
			その他職員(時給×時間)	千円					
			計(B)	千円	749	749	749	749	
	事業費合計(C=A+B)	千円		16,350	21,717	21,717	21,331		

(3)業績

展開方向における指標の推移		基本施策		16		展開方向		1	
指標名		単位	方向性	基準値	R1	R2	R3	R4	
1									
2									
3									

指標	指標ほか		単位		H30	R1	R2	R3	R4
	成果指標	病児保育事業年間の延べ利用者数 (子ども・子育て支援計画より)	人	目標	1,260	1,240	1,851	1,665	1,539
				実績	734	774	176	524	
	活動指標			目標					
				実績					
				目標					
				実績					
	単事業あたり	受益者数(a)		人	734	774	176	524	
		受益者あたり事業費(=C/a)		円	22,274	28,057	123,389	40,707	

(4)事業の評価

事業の評価	事業の方向性	維持	事業のボリュームを現状規模で維持すべきもの	
	事業の達成状況と課題	<p>令和2年度は新型コロナウイルスの影響により、利用人数が減少したももの、令和3年度は令和2年度に比して増加した。目標値は見込み数を記載しているため、実績値との乖離があるが、事業の目的である病氣中、または病氣の回復期にある児童の保育は達成した。 今後の課題としては、需要に対応するための人材確保に加え、病児保育を実施できる新たな医療機関の確保等が必要となる。</p>		
	今後の実施内容	<p>引続き、多様な保育ニーズに対応する事業として、需要に対応できるような量の確保をしていき、適正な事業執行に努める。</p>		
事務事業評価による額	千円	節	細節	細々節